

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

# 事務局便り

No. 35

2020年4月12日

会 長 中澤和夫  
事務局 〒558-8585 大阪府大阪市住吉区杉本 3-3-138  
大阪市立大学英語教育開発センター 山本 修 研究室内  
tel.: 06-6605-3587 (研究室) / fax: 06-6605-3428 (共同研究室)  
Email: segu.office@gmail.com  
ウェブサイト: <http://segu.sakura.ne.jp> 郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

## ◆会長の交替

本学会会長選出内規に従って2019年9月に行われた会長選挙において、2020年4月からの会長に中澤和夫氏（青山学院大学）が選出され、2019年10月19日開催の運営委員会および総会で承認されました。任期は2年間です。

会長の交代に伴い、事務局業務も大阪市立大学英語教育開発センター（山本修研究室）に移管いたします。

## ◆新会長挨拶

会長就任のごあいさつ

会長 中澤和夫

2020年4月より、大室剛志前会長の後を受けて会長となりました中澤和夫です。精一杯努める所存です。どうぞよろしく願いいたします。

今年は、2020年の年が明けて新年のあいさつがほぼ聞かれなくなったと思っていましたところ、突然、新型コロナウイルス感染症のニュースが伝えられました。その後、この感染症は瞬く間に世界的大流行となってしまいました。もちろん日本においても、社会・文化的活動、あるいは人的交流がかなり制限されており、先の見通しがなかなか立てづらくなっております。会員の皆様におかれましても、さまざまな変則を強いられていることと思います。また、皆様ご自身の健康にも、どうぞ十分留意されんことを願っております。

本学会においても、例年8月に英語語法文法セ

ミナーを、10月に英語語法文法学会大会を開催しております。私たちとしてもそれらの準備はおさおさ怠りなく進めていますが、いまだ予断を許しません。これらの開催に関しては、もし変更のあった場合には、本学会ウェブサイト等を通して、できるだけ迅速にお伝えしてまいります。

さて、私自身、本学会の会長となって周りを見回してみると、こと英語関係に限っても、日本にはたくさんの学会があるということに気が付きませぬ。日本英文学会のような大店は、英文学という看板のもと、英文学、米文学、英語学、英語教育等、幅広く店を構えています。また、日本英語学会ももう一つの大店で、通時的な言語学・英語学や共時的英語学、方法論に至っては、記述的、理論的、あるいは機能主義的・極小主義的・認知論的・語用論的・構文文法的・談話文法的等々と、あらゆる英語学研究を含んでいます。そうした大店に対して、認知や語用などの理論を中心に唱えた学会、つまり専門店もあれば、例えば、歴史的時間軸に沿った専門店の学会もあります。後者の例としては、中世を対象とする英語研究、つまり古英語や中英語研究、の学会があり、また近代英語研究の学会もあります。そして、言うまでもなく、現代英語を対象とする我が英語語法文法学会があります。それぞれの学会は、それぞれの時代区分の中の英語研究の最初で最後の拠り所と言ってもよいかもしれません。とは言え、他学会のことは知らず、少なくとも本学会としては、現代英語の記述的研究については、本学会を措いて他にはない、と言い切ってもよいと思います。つまり、私は、本学会の存在意義はここにあると考えております。現代英語には、明らかにしなければなら

ない事実がまだまだたくさん存在しています。英語の母語話者には当たり前かもしれませんが、私たちがふと立ち止まって観察してみると、実に不思議な言葉の世界がそこにあるのに気づきます。私たちは地道にそれらを掘り起こし、体系づけられるところは規則性を見いだして明示的な形で述べる、こうした活動が本学会の根幹でありましょう。とにかく、過剰な作例などに拠らず、英語の事実に密着していなければなりません。これが本学会の最重要の基本姿勢であり、これは本学会の設立趣意書にも謳われている通りです。

私たち現代英語に係わる者にとって、では、何が一番大事でしょうか。私たちは、英語に対して実に多様な接し方をしています。ひとり英語を読む、新聞でも小説でも、あるいは映画や演劇を鑑賞する。または、教育の最前線で英語を教える、あるいは学生として、研究者として英語を学び研究する。ほかにたくさんあると思いますが、そうした中で一番大事なのは何か、というと、これはやはり英語を知る、ということだろうと思います。英語の機微を知る、息遣いを知る、と言い直してもよいかもしれません。こうした、多少、文学的な言いを、語学的に言い表せば、英語の語法文法を研究する、という風になるのだと思います。日常の英語活動と直に結びつく研究、それが英語の語法文法研究であると言ってよいと私は考えています。

本学会は、これからも会員の皆様のさらなる研究活動の一助となるとともに、社会への貢献をも果たして行きたいと願っております。会員の皆様には本学会への変わらぬご支援を心よりお願いいたします。

## ◆前会長退任挨拶

会長の任を終えるにあたって

大室剛志

3月31日で2期4年に及んだ会長の任を無事に終えることになりました。新型コロナウイルス感染症で世間が騒然となりつつある3月16日、通常の運営委員会を開くことを避け、新旧事務局メンバーだけで大阪に集まり、事務局の引き継ぎを行うという異例の事態となりましたが、中澤和夫先生に会長の任を引き継いでいただき、この上なく安堵しています。

私の前の会長である内田聖二先生が、逼迫した学会の財政状況を打開するために、先生の会長時

代に、年会費、懇親会費の値上げ、運営委員の交通費の節約などのカンフル剤をうって下さったお陰で、この4年間は学会の財政問題で頭を痛めるということはありませんでした。また、会員数は、各学会が会員数減少で悩む中、微増ではありますが、一定数を当学会は維持出来ています。ただ、財政基盤は盤石とはとてもいえませんので、若手学会員の勧誘などを通して、引き続き本学会の発展にご協力のほどお願い申し上げます。

英語語法文法学会は、会員の皆様の研究活動により基本的に成り立っています。秋に行われる大会、夏に行われるセミナー、暮れに刊行される学会誌『英語語法文法研究』は、当学会の3本柱であります。大会は、第24回(奈良大学)、第25回(専修大学)、第26回(立命館大学)、第27回(北九州市立大学)と順調にしかも盛会に開催されました。この場を借りまして、中心的に働かれた内田聖二先生、濱松純司先生、滝沢直宏先生、伊藤晃先生に心より感謝申し上げます。セミナーは、第13回だけが突然の台風襲来で中止となりました。危機管理上の当然の措置でしたが、今回の新型コロナウイルス感染症による運営委員会開催の回避と同様、学会にも危機管理が突きつけられていることを痛感した次第です。『英語語法文法研究』は、中澤和夫編集委員長と吉良文孝編集委員長の下で、第23、24、25、26号と充実した学会誌が順調に刊行され、第25号からは表紙が刷新されています。

学会設立20周年を期に、学会の研究活動成果を広く社会に還元すべく企画されたシリーズ「英文法を解き明かす」の出版は、残り3冊となっています。10巻からなるシリーズの完成も近いものと思われまます。

英語の各語が持つ細かな実際の用法の発見、微細な部分にまで踏み込んだ英語の文法規則や英語の構文の発掘は、英語をどのレベルで研究しようとも、またどの理論的アプローチをとろうとも、その土台、基盤になるものです。その意味で、英語語法文法学会で行っている英語の語法文法の記述的研究は、何時の世でも欠くべからざる不変の研究です。この研究を会員の皆様が一丸となって、今後とも粛々と進めて行かれることを願って止みません。

最後になりましたが、これまで支えて下さいました学会賞選考委員会、運営委員会及び編集委員会の先生方に心より感謝申し上げます。吉田幸治事務局長、五十嵐海理事務局長、前川貴史会計・名簿管理担当、吉川裕介会計・名簿管理担当には、御礼の言葉も見つかりません。どうもありがとうございました。

## ◆『英語語法文法研究』第26号刊行

『英語語法文法研究』第26号が2019年12月に刊行されました。第26回大会でのシンポジウム「レトリックと英文法研究」の論文4編のほか、8本の研究論文と2編の語法ノートが掲載されています。

## ◆第28回大会開催案内

英語語法文法学会第28回大会を下記の要領で開催します。

昨年度より研究発表の応募方法が大きく変更されておりますので、後述の応募規定を十分にご参照いただき、ご応募くださいますようお願いいたします。

日時：2020（令和2）年10月17日（土）

会場：大阪市立大学

（〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138）

<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja>

順路：

最寄駅

- ・JR 阪和線「杉本町（大阪市立大学前）駅」下車、東口すぐ
- ・地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約15分
- 新大阪から・・・JR もしくは地下鉄御堂筋線、約1時間
- 関西国際空港から・・・JR 関空快速（堺市駅で各停に乗換）、約1時間

今回のシンポジウムは、「正しい英文解釈に必要な語法文法知識」をテーマとして準備中です。司会、講師は以下の通りです。

司会・講師：吉田幸治（近畿大学）

講師：岡田伸夫（関西外国語大学）

講師：林龍次郎（聖心女子大学）[敬称略]

## ◆第16回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年とは異なる時期での開催となります。

日時：2020（令和2）年8月24日（月）

13時30分～17時30分

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス 1405室

（〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19

アプローチタワー14階）

参加費：2,000円（資料代を含む）

今回のテーマは、『日本語訳では理解できない英語のしくみ』です。司会と講師、各講師のタイトルは以下のとおりです。

司会・講師 西田光一（山口県立大学）「英語の照応表現の選択のバリエーション」

講師 辻本智子（大阪工業大学）「句動詞の表現力」

講師 松原史典（京都女子大学）「倒置現象の意味と形式」

講師 盛田有貴（奈良女子大学）「ことばや思考の引用を含む現象に隠れた意味と機能」

[敬称略]

参加ご希望の方は、英語語法文法学会ウェブサイトの「研究大会・セミナー」のページ (<http://segu.sakura.ne.jp/events.php>) にアクセスし、申込フォームに必要事項を記入の上、お申し込みください。申込み締め切りは8月12日（水）です。必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。

## ◆第20回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第20回英語語法文法学会賞」（2018年4月1日～2019年3月31日までに出版された単行本が対象）について、今回は「該当者なし」という結果になったことが第27回大会（北九州市立大学）において大室会長より報告されました。

## ◆第21回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第21回学会賞対象図書は（他薦に限る）を受け付けております。対象図書は2019年4月1日～2020年3月31日までに出版された単行本です。（ただし、研究社より順次刊行されている『〈シリーズ〉英文法を解き明かす』全10巻は本賞の対象とはなりませんので、ご注意ください。）

同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、faxあるいは郵便で2020年5月10日までに事務局宛にお送りいただくか、同一の内容をファイルemailで事務局までお知らせください（事務局：〒558-8585 大阪府大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪市立大学英語教育開発センター 山本修研究室内 英語語法文法学会事務局 fax: 06-6605-3428（共同研究室） email: [segu.office@gmail.com](mailto:segu.office@gmail.com)）

## 英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

（授賞）

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以

下「委員会」という)の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

- 2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。
- 3 授賞式は年次大会において行う。

(関係部分一部抜粋)

#### ◆第10回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第10回「英語語法文法学会奨励賞」には、下記の会員とその論文が選ばれました。第27回大会(北九州市立大学)で表彰式が行われ、会長より賞状と賞品が贈られました。

三野貴志氏「Sound Emission Verbs in *There* Constructions」(『英語語法文法研究』第26号に掲載)

なお、第11回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

#### 英語語法文法学会奨励賞授賞規定

(授賞の対象)

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする。

『英語語法文法研究』への応募論文(研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く)を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に限る。

(選考方法)

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

(選考結果の発表および授賞式)

第4条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

(関係部分一部抜粋)

#### ◆運営委員の交替

本年3月下旬に開催した運営委員会(対面式を避けオンラインにて実施しました)において運営委員として以下の方々の就任が承認されました(任期は2020年4月1日より2022年3月末日まで)。

濱松純司(専修大学)

山本 修(大阪市立大学)

西脇幸太(愛知文教大学)

[敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方々が運営委員を退任されました。学会運営に対するこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

牛江一裕(埼玉大学)

西田光一(山口県立大学)

滝沢直宏(立命館大学)

[敬称略]

なお、運営委員を退任される三名の方々には編集委員としてはご留任いただき、引き続き本学会にご協力いただくこととなります。

#### ◆運営委員会委員の就任

今年度の各委員会の委員長、副委員長、構成員は下記のとおりです(◎は委員長、○は副委員長)。

大会実行委員会

◎出水孝典 ○濱松純司 大室剛志 林龍次郎  
大竹芳夫 五十嵐海理 住吉誠 吉田幸治

セミナー委員会

◎前川貴史 ○西脇幸太 梅咲敦子 金澤俊吾  
[敬称略]

#### ◆第28回大会研究発表者募集

第28回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定にしたがい、事務局宛([segu.office@gmail.com](mailto:segu.office@gmail.com))に奮ってご応募ください。

なお、応募規定は今回から大幅に変更になっております。発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの書式は変更ございませんが、それら書面の郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Formによる投稿確認との2段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

#### <研究発表応募規定>

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内(別に質疑応答が10分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

① 発表要旨(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

A4 判 32 字×25 行(文字の大きさは 12 ポイント)で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の実態を体系的に明らかにし、英語の具体的な語彙や構文の特性を実証的に解明することを目的として、未発表のものであること。

② 応募者情報(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の 2 つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「研究発表応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の研究発表応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力の場合、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会の gmail アドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7 月 25 日 23 時 59 分(必着)とする。

6. 選考結果は 8 月中旬までに通知する。

7. 採用者は発表要旨(500 字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。(2019 年 3 月 10 日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の 4-2 にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7 月 10 日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

#### ◆第 28 回大会語法ワークショップ発表者募集

第28回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその振る舞いの特性を明らかにすることを目的とします。下記の語法ワークショップ応募規定に従い、事務局宛 (segu.office@gmail.com)に奮ってご応募ください。

なお、昨年度より語法ワークショップでの各自の持ち時間は発表15分と質疑応答5分の計20分となりました。また、先の研究発表応募規定と同様、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの書式は変更ございませんが、書面の郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Formによる投稿確認との2段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

#### <語法ワークショップ応募規定>

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は 15 分以内(別に質疑応答が 5 分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

① 発表要旨(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

A4 判 32 字×25 行(文字の大きさは 12 ポイント)で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の具体的な語彙や構文の特性を調査した成果を報告することを目的として、未発表のものであること。

② 応募者情報(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の2つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の語法ワークショップ応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会の gmail アドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7月25日23時59分(必着)とする。

6. 選考結果は8月中旬までに通知する。

7. 採用者は発表要旨(500字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。(2019年3月10日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の4-2にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7月10日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

**【応募上の注意】**

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。  
また、二重投稿はご遠慮ください。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』(第27号)への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は

現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、本規程の第4項以下が2019年8月の編集委員会・運営委員会で大幅に改訂されておりますので、ご確認をお願いいたします。

＜『英語語法文法研究』(第27号)の論文・語法ノートへの投稿規定＞

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 単著・共著にかかわらず、同一人が同時に2本以上の論文を投稿することはできない。論文と語法ノートに各1本(計2本)、あるいは語法ノートのみで2本以上の投稿は認められる。
5. 論文の場合、長さは34文字×31行、16枚以内とする。語法ノートの場合、長さは34文字×31行、6枚以内とする。
6. 投稿者は、下記①と②の電子ファイル、ならびにその紙媒体を用意する。

① 「論文」・「語法ノート」の原稿(MS WordファイルまたはPDFファイル)  
冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しない。また、ファイルの情報として作成者名を残さない(ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする)。

② 執筆者情報(MS WordファイルまたはPDFファイル)

論文題名、氏名(ふりがな)、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、email addressを明記する(共著の場合は、執筆者全員の情報を明記のこと)。投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募の応募締め切り時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月(または、在籍中ならばその旨)を、このファイルに明記すること。(奨励賞の候補者は、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了10年以内の学会会員に限る。)

なお、紙媒体については、①と②を、A4用紙にそれぞれ1部印刷する。

7. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。
  - a. 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
  - b. 例文の前後に1行ずつの空白行を設ける。
  - c. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設ける。
  - d. 外字、機種特有の文字・記号は使用しない。
  - e. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
  - f. 2桁以上の数字は半角を用いる。
  - g. 小説・論文の出典は下のよう表記する。  
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
  - h. 注は脚注とする。
  - i. 上記以外は既刊号の論文を参考にする
8. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。  
Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.  
柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二(編)『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京: 英宝社.  
小西友七. 1976a. 『英語の前置詞』東京: 大修館.  
小西友七. 1976b. 『英語シノニムの語法』東京: 研究社.  
Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.  
村田勇三郎. 1979. 「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第125巻第3号, 20-21.  
Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.  
van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.
9. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
10. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
11. 原稿料は支払わない。
12. 応募書類の提出先  
第5項の①と②の電子ファイルはemailに添付し

て、編集委員長宛に email (segu.paper@gmail.com) で送ること。件名を「投稿」とする。また、①と②の紙媒体は、編集委員長宛\*に郵送すること（「投稿論文在中」と朱記）。

\*〒183-0011 東京府中市白糸台2-27-35  
吉良文孝

(2019年8月6日改定)

**【応募上の注意】**  
研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はできません。

#### ◆英語語法文法学会第27回大会（報告）

英語語法文法学会第27回大会は2019年10月19日（土）に北九州市立大学北方キャンパスにて開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論が行われました。司会を務めて下さった前川貴史先生、松村瑞子先生、植田正暢先生に感謝申し上げます。また、開催校委員の伊藤晃先生、葛西宏信先生、永末康介先生、学生・院生の方々にも改めてお礼を申し上げます。

#### 語法ワークショップ 10.30 – 11.50

(本館3階 C-302 教室)

司会 前川貴史 (龍谷大学)

1. 「Because 独立節—OED 編集長の著書に見られる実例を中心に—」  
金子輝美 (元・愛知淑徳大学非常勤)
2. 「as... as (...) can be 再考」  
松田佑治 (立命館大学)
3. 「Regardless of whether の記述的考察」  
大野真機 (昭和大学)
4. 「but と置換可能とされる and についての一考察」  
田岡育恵 (大阪工業大学)

#### 研究発表 13.00 – 14.45

第1室 (本館3階 C-302 教室)

司会 松村瑞子 (九州大学)

1. 「先行事象(発話)に対する評価を表す There go 構文」  
三野貴志 (大阪大学大学院)
2. 「Speaking of which の構文化分析再考」  
山内 昇 (大同大学)
3. 「It is past time... の形式と意味」

桑名保智 (旭川医科大学)

第2室 (本館3階 C-303 教室)

司会 植田正暢 (北九州市立大学)

1. 「基数詞目的語によって生じる over-V の意味の考察」  
岩宮 努 (大阪大学大学院)
2. 「「上位語型」同族目的語構文の動機づけ—  
名詞 laugh が生起するパターンを中心に—」  
大井良友 (大阪大学大学院)
3. 「be starting/beginning + Ving における-ing  
形の二重使用制約について」  
島本慎一郎 (日本大学)

**シンポジウム** 15.35 – 17.45

(本館3階 C-301 教室)

テーマ「否定と尺度と談話と一否定表現とその周辺」

司会 五十嵐海理 (龍谷大学)

1. 「日本語と英語における否定極性項目と緩叙法」 有光奈美 (東洋大学)
2. 「否定の繰り返しと Not-topic」 五十嵐海理 (龍谷大学)
3. 「否定辞 not を含む等位構造を巡って」 関 茂樹 (大阪市立大学)

討論者 佐野まさき (立命館大学)

**懇親会** 18.00 – 19.30

厚生会館1階生協食堂

#### ◆2019年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に加入してくださいました。どうぞよろしくお願ひ致します。  
(50音順。掲載希望者のみ。)

池上 彰 (弓削商船高等専門学校)  
市川 泰弘 (日本工業大学)  
岩宮 努 (大阪大学大学院)  
大井 良友 (大阪大学大学院)  
岡村 徹 (公立小松大学)  
阪田 卓洋 (筑波大学附属駒場中・高等学校)

[敬称略]

#### ◆2018年度会計報告 (Apr. 2018-Mar.2019)

(第27回大会総会において承認されました)

(収入)		(以下、単位：円)
前年度繰越残高		2,962,326
助成金 (全国大会開催校立命館大学から補助)		55,000
会費		1,615,000
学会誌売り上げ		35,149
懇親会費		213,000
雑収入		183,752
<b>計 (1)</b>		<b>5,064,227</b>
(支出)		
事務局費		13,024
通信費		190,123
旅費交通費		300,246
印刷費		177,180
人件費		34,500
会議費		22,532
消耗品費		17,259
雑費		9,006
雑誌製作費		753,694
大会運営費		306,840
<b>計 (2)</b>		<b>1,824,404</b>
<b>残高現在 [計(1)-計(2)]</b>		<b>3,239,823</b>

#### ◆年会費納入のお願い

本学会の年会費は、2013年4月1日より、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となっております。つきましては、2020年度(2020年4月～2021年3月)会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください(郵便振替料金は203円(ATMからは152円)です)。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、前年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学院名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、住所・所属に変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会のウェブサイト (<http://segu.sakura.ne.jp/>) の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

#### ◆新刊書紹介

澤田治美・仁田義雄・山梨正明 (編) . 『場面と主体性・主観性』(ひつじ研究叢書(言語編) 第148巻) . 東京: ひつじ書房. 2019年4月.  
井上亜依. 『英語のフレーズ研究への誘い』(言語・文化選書81) . 東京: 開拓社. 2019年6月.



- 住吉誠・鈴木亨・西村義樹（編）．『慣用表現・変則的表現から見える英語の姿』．東京：開拓社．2019年9月．
- 出水孝典．『統・動詞の意味を分解する一変化の尺度・目的動詞・他動性一』（言語・文化選書82）．東京：開拓社．2019年10月．
- 黒滝真理子．『事態の捉え方と述語のかたち』（言語・文化選書83）．東京：開拓社．2019年10月．
- 和田尚明．*The Grammar of Future Expressions in English*．東京：開拓社．2019年11月．
- 現代英語談話会編．『英語のエッセンス』．大阪：大阪教育図書．2019年12月．
- 中邑光男（編）．『アクシスジーニアス英和辞典』．東京：大修館書店．2019年12月．

### 編集後記

2016年4月より大室会長のもとで事務局長として学会の運営に関わらせていただきました。2018年度は私事により事務局の業務を遂行することが不可能となり、五十嵐前事務局長に復帰していただきましたが、なんとか3年間の作業を大過なく終えることができました。この3年間に賜った会員の方々のご協力にお礼申し上げます。

また、常に寛大な態度で接していただいた大室会長、一年間事務局長を代行していただいた五十嵐先生、無理なお願いにもかかわらず会計名簿管理を担当していただいた前川先生と吉川先生にもお礼申し上げます。さらに、事務局運営に対して多大な援助をしていただいた運営委員の先生方にもこの場をお借りしてお礼申し上げます。

新旧両会長の挨拶でも触れられていますが、100年に一度あるかないかの恐ろしい事態が出現してしまいました。あたかも戦時体制下のような不安と恐怖が社会を覆いつくそうとしています。英語を研究・教育する我々のなすべきことは、流言蜚語などに惑わされることなく、正しい情報を得る努力をしながら、知恵を出し合い、冷静沈着かつ理知的な行動でこの難局を乗り切っていくことであると考えます。

今年度より、中澤会長・山本修事務局長・吉川裕介会計名簿管理担当体制による学会運営がはじまりますが、引き続き、会員の皆様の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

(2020年4月12日 吉田幸治)